

平成29年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

平成30年11月

はじめに

下呂市では下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んでいるところです。

平成30年11月

下呂市教育委員会

平成29年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【方針】

- ◇児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する
- ◇学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

【指標】 魅力ある学校づくりに向けて

- ① 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。
 - ② 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
目標	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	94.0	93.8	93.7	94.2	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5

② 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
目標	80.0	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	92.6	93.7	94.1	94.0	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7

〈総評〉

- 平成17年度より設定した指標に対する評価数値は年々高くなっており、9割以上の児童生徒が学校生活への満足感や授業への充実感を得ていることが分かる。各校における教育活動の充実を表す一つの指標と捉えることができる。
- 一方で、満足感や充実感を得られていない「残り数%」の児童生徒に焦点を当てた指導や支援も必要であり、児童生徒個々の特性や実態、背景等を把握し、きめ細かな指導や支援を継続している。
- 教職員の指導力向上を図ることが、児童生徒の確かな学力の定着や健やかな成長につながることから、学校訪問での指導や研修などの充実をしてきた。同時に、管理職やミドルリーダーが十分に指導性を発揮し、組織力を高めることも重点として指導してきた。それにより、各校では長期と短期の指導目標を定め、PDCAのサイクルにより全職員で共通理解・共通実践する仕組みづくりがなされてきた。
- 各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んでおり、成果ができています。生きる力を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む調和のとれた教育の充実をめざし、学校指導を充実させたい。

2 重点における評価

(1) 「確かな学力」の定着を図る指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力学習状況調査の結果分析と「指導改善プラン」の作成
- ・C R T調査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・授業の終末における、評価問題や補充問題の確実な実施
- ・少人数指導の実施：少人数指導加配配置校（萩原小、下呂小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C Tや具体物を活用した授業

【成果・評価】

□全国学力学習状況調査

- ・市全体の平均正答率は、小学校の国語、算数、中学校の国語、数学ともに全国の平均正答率を上回っており、学力定着の成果は出ている。
- ・学習規律の安定や学習集団の向上、きめ細かな分析による教科指導の工夫等により、調査結果が良好な状態は続いている。
- ・質問紙調査や魅力ある学校づくりのための設定指標調査においても、「授業がわかりやすい」と答える児童生徒の割合は90%を超えている。今後は、「授業が楽しい」と答える児童生徒の割合にもこだわり、「学ぶに向かう力」を高めていく必要がある。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・主幹教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・障がい児教育支援委員会充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実 市費32名 県費6名

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的学級	自閉情緒学級	難聴学級	言語通級教室	LD/ADHD等通級教室
小学校	10校	7校	1校	2校	4校
中学校	6校	4校			1校

- ・市費学業支援員等の配置を計画的に進めてきたことにより、個の教育的ニーズに応じた支援ができています。各校においては、関係機関や保護者との連携・連絡を密にしていることで合意形成による長期的な支援方法も考えられている。
- ・対象児童生徒が増加傾向にあり、それに対応する学級や通級指導教室の確保、専門的な指導ができる教員の育成が課題である。

(2) 「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 道徳教育等の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「心を育てる教育計画訪問」等による道徳の時間の充実
- ・「特別の教科 道徳」先行実施と実践による道徳の時間の充実
- ・学校行事や児童会、生徒会活動の工夫、体験的活動の工夫・発展による人間関係構築

【成果・評価】

- ・規範意識や他者を思いやる心、郷土を愛する気持ちの高まりがあり、行動にもつながっている。
- ・「自己を見つめる力」「困難を克服する強さ」「新たなことに挑戦する意欲」など、個々の弱さも感じられ、さらなる充実が必要。

② 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・生徒指導主幹教諭配置による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上
- ・管理職を柱とした生徒指導体制の構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）
- ・いじめ未然防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実

【成果・評価】

□いじめの認知件数

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
24件	30件	18件	19件	34件	28件	117件

- ・認知件数増加はいじめの定義が変更になったことによるが、学校において早期発見、早期対応の意識が高まったことの成果でもある。事案発生時の組織的対応も確立されてきた。
- ・市民活動推進課と協議しながら「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等を作成中。

□不登校

種別	小学校				中学校			
年度	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29
人数	2	4	3	3	30	24	18	18
1000人当たり	1.2	2.5	1.9	1.9	32.3	26.2	20.4	20.4

- ・近年の状況では、26年度をピークに減少傾向にはある。1000人当たりの出現率を見ても、国や県を下回っている。
- ・不登校の要因は複雑化している。専門家（SC、SSW）や関係機関との連携を密にするなど、組織的対応は不可欠。

③健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・毎朝の健康観察及び保護者との連携強化 ・学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生参加）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化

【成果・評価】

- ・児童生徒が主体的に健康管理できる態度と能力が培われるよう、健康指導に関する工夫がされた。
- ・命を守る訓練の充実、サポートスタッフ等による見守りの強化等、安心安全を基盤とした教育が展開されている。
- ・通学時の安心安全の確保については、関係機関や地域との連携は不可欠な状況である。

(3)その他の教育活動、研修事業

① 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の様子（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域の人材を活用した教育活動、地域に根ざした教育活動（郷土教育）の充実、発展
- ・森林教室等、地域に関わる教育の充実

【成果・評価】

- ・学校運営協議会準備完了3校（下呂小、下呂中、馬瀬小） → 地域と共にある学校づくりが進められている。
- ・小学校森林教室実施6校（萩原小、宮田小、尾崎小、小坂小、下呂小、上原小）
位山自然の家体験学習実施校10校（萩原小、宮田小、尾崎小、下呂小、中原小、下原小、菅田小、東第一小、馬瀬小、萩原北中）
- ・地域人材の活用や郷土教育を充実させるなど、地域と共にある学校づくりが展開されてきたことで、児童生徒に「ふるさとを思う気持ち」が生まれ、地域行事や地域ボランティアに参加する姿が多くなった。

② 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業充実

【成果・評価】

- ・教育実践講座 夏季講座：9講座延べ282名 秋季・冬期講座：3講座延べ26名
教育実践論文応募 33点
- ・教職員一人一人が研鑽に励み、資質向上している。

(4) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・平成29年度 小学生88名、中学生85名

- ② 改築、修繕関係

- ・南部学校給食センター改築工事を実施した。
- ・金山地域小中学校校舎に網戸設置工事を実施した。
- ・金山中学校校舎屋上防水工事を実施した。
- ・金山小学校屋内運動場改修工事を実施した。
- ・北部学校給食センター改築事業において、上下水工事を実施した。
- ・小学校3校、中学校3校の屋内運動場トイレの洋式化工事を実施した。
(尾崎小学校、中原小学校、東第一小学校、萩原北中学校、下呂中学校、竹原中学校)
- ・小坂小学校プール塗装工事を実施した。
- ・馬瀬小学校トイレ改修工事を実施した。
- ・竹原中学校防水改修工事を実施した。

平成29年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び内部評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

[基本目標] 2.はぐくみ

[基本施策] 2-4.歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

[目指すまちの姿]

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財包蔵地の詳細地図作成

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
目標	60%の地区 で現地確認	80%の地区 で現地確認	全ての地区 で現地確認	遺跡範囲の 確定作業	遺跡範囲の 確定作業	地図刊行準 備編集	新遺跡地図 編集製本
実績	実施 萩原地域	達成 馬瀬地域	達成 小坂地域	遺跡範囲の 確定作業	地図刊行準 備編集	新遺跡地図 発刊(10月)	★1年前倒し で達成

内部評価：1970年代に作成された手書きの「遺跡カード」では、正確な遺跡の位置を確認することができなかった。範囲測量調査を踏まえた今回の新遺跡地図は、新領域統合型 GIS システムにも反映され、公共事業工事予定地での該当の有無を担当者が迅速に確認することが可能となった。また、教育総務課窓口でも土地家屋調査士や事業者による照会対応に正確に回答することが可能となった⇒「まちの姿②」。

【成果指標②】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
目標	目標設定年	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500
実績	14,445	15,410	14,744	15,306	17,449	—	—

内部評価：旧町村に設置された博物館・資料館の運営を平成21年度に見直し、平成22年度以降、市内で最大規模を保有する下呂ふるさと歴史記念館へ段階的に事業集約を実施した。同館は平成23年度に展示改装を実施し、平成24年度以降は週末に体験学習が可能となっている。

博物館は市内の歴史と文化を次世代に“つなぐ”市民に開かれた拠点であり、文化財事業の成果を速報的に展示公開する場でもある。そのため、専任の学芸員の配置が必要である。入館者数は増加傾向にあり、また学校団体・国際交流・教員研修等の場としての利用も増加している。ただし、平成24年度以降専任職員が配置されておらず、教育総務課職員の兼務が続いているため、十分な事業実施に至らない側面を今後改善する必要がある⇒「まちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1.文化財保存修理事業助成費 国・県・市指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【国指定】 禅昌寺のオオスギ保護（被災）

【県指定】 禅昌寺蔵白隠書跡保存修理、鳳凰座舞台扉新調、鳳慈尾山大威徳寺跡保存整備（被災）、坂下のケヤキ保護

【市指定】 六所神社本殿屋根保護、永養寺のシダレザクラ保護

下呂市には幅広い種類の指定文化財があるが、地域のシンボリックなものが多く、いずれも次世代につなぎ・伝えるべき文化財である。昨今は台風等による被災復旧が多い傾向にある。

2-2.指定文化財保護事業 市内指定文化財の巡視と現地指導・文化財の新指定と登録

⇒「まちの姿①」

【文化財審議会】 5/31・12/22 実施：指定文化財案件の審議（指定解除・区分変更）

【市指定文化財の現状巡視】 保護巡視員 15 人による年 2 回の巡視

【国登録有形文化財申請】 都筑家住宅土蔵所見作成等：平成 30 年 11 月 2 日登録が官報告示

【国天然記念物の樹勢回復方針調査】：久津八幡神社の夫婦スギの雄スギの根の張り方調査
地域の指定文化財を活用するためには併行して適切な「保護」が必要である。市保護巡視員の巡視結果は、管理状況の把握と所有者への適切なアドバイスに資している。地域の歴史のシンボルである萩原町羽根の都筑家は平成 23 年度に既に主屋が登録され、今回土蔵が追加されたことにより、次世代へつなぐ遺産が充実した。久津八幡神社の夫婦スギは平成 31 年度に倒木防止のためのワイヤー固定工事を実施し、自然遺産の伝承を確実なものとする予定。

2-3.加藤素毛記念館／小坂郷土館／金山郷土館／馬瀬歴史民俗資料館／禅昌寺歴史資料館管理運営

今日まで地域に大切に伝わった収蔵資料の展示公開⇒「まちの姿③」

【加藤素毛】・【金山郷土館】 地域の郷土史に詳しい人物による希望日開館と対応

【馬瀬歴史民俗資料館】 振興事務所職員による希望日開館

【小坂郷土館】 開館日土日祝日限定・受付はシルバー委託

【禅昌寺歴史資料館】 市に寄贈された文化財等の収蔵庫

加藤素毛記念館は遣米使節団の一人として随行した加藤素毛の遺品（県重文）を展示公開する。TV 取材も多く、知名度向上に貢献している。また、加藤素毛記念館と金山郷土館とも地元小・中学校の社会科見学先として利用されている。一方で、利用者が低迷する小坂郷土館・馬瀬歴史民俗資料館の 2 館は平成 31 年度以降休館とし、地元自治会と協議を実施の上、資料館活用のあり方を探る。禅昌寺歴史資料館は引き続き文化財収蔵庫として活用する。

2-4.博物館収蔵品調査保存整理事業 文書や出土遺物を整理保存し新たな価値を発見

⇒「まちの姿③」

【市収蔵資料の調査整理と目録刊行による公開】 萩原町村史料の調査整理と目録作成

【収蔵品を活用した講座・授業の実施】 3 回連続講座×春・秋、萩原小学校総合的な学習授業

文化財は常に「新たな価値」の発見の連続が必要であり、公開しさらに価値を共有し、“地域の新たな宝”としていく。そのために、市民に身近な文書資料の整理と公開を順次進めており、講座開催を始め、萩原小学校 6 年生の授業材料としても活用している。

平成29年度「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価

生涯学習の基本理念

生涯学習は人づくりです。地域の主人公である市民は、学んだ英知を地域に還元し、原動力とすることにより市民主体によるまちづくりを推進しなければなりません。市民一人ひとりが生涯にわたって豊かな生活ができるよう学習し、その英知と努力を結集し、未来を築く生涯学習社会や活力ある地域づくりにつなげることを目指します。

基本理念として、3本の柱で活力ある生涯学習社会の構築を目指します。

- 自立・・・的確に判断し、行動・活動ができる人づくり
- 協働・・・仲間や地域で協力し、活動できる家庭・地域づくり
- 創造・・・伝統や文化の伝承と、変化を受けとめ新たに創り出す社会づくり

市の責務

市民が「参加したい、活動しやすい、そして喜びにつながる施策づくり」に努めます。

生涯学習の目標

1. 学習 : 自己をみがき、生きがいをもつ
2. スポーツ : 心身の健康を目指した運動を継続する
3. ボランティア : 進んで活動に参加し、社会に奉仕する

分野別方針と事業結果について

個別事業については、別表の「重点と評価」に整理していますが、分野別の主な事業について、次のとおり事業結果等をまとめました。

1. 家庭教育

【方針】下呂市の家庭教育は、子どもの自立と積極的で温かい心をもった子どもの育成、未来を担う子どもたちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援プログラムの充実を図るよう事業を見直すと共に関係行政相互の連携を推進します。

【母親の胎内が、家庭教育のスタート】

(めざすこと) ①子育て支援、②乳児期から青少年期の段階に見合った子どもの育成、③保育園や学校、地域の連携による「家庭の教育力」や「地域参加」の向上、④公共心や規範意識、自己規制の力などを身につけること。

主要な個別事業と事業結果について

○家庭教育支援総合整備事業

いのちのふれあい講座は中学生を対象に、妊婦体験や子育て中のエピソードを聴くことで、命の大切さを学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながりました。

親まなび講座、家庭教育支援事業（UPカフェ、赤ちゃんカフェ）は、父親母親を対象に開催し、親同士や支援スタッフとの語り合いの中で、子育て中の悩みや不安の解消、ストレスの解消を図りました。

企業の協力をいただき、企業内家庭教育研修を開催しました。父親の育児参加、経営者側の子育て支援への理解を深める効果が大きいのですが、受入れ企業が限られます。今後は地域等で推進することを検討し、市民にもっと情報を発信し、子育てについて理解を深めていただく必要があります。

家庭教育については、地域や学校等との連携が必要ですが、現在は十分とは言えず、今後の課題となっています。

2. 青少年教育

【方針】生涯にわたる学習・生活の、基礎・基盤となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには社会変化に適切に対応できる能力や、たくましく生きるための健康や体力などの「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。その実現に向けて、教育機関や地域社会との連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○青少年教育事業

下呂市青少年育成推進員はじめ市民による青少年育成市民会議により、少年の主張大会、青少年育成顕彰「わかあゆ賞」、英語スピーチコンテストを開催しています。

少年の主張大会では、中学生がふだん考えていることを自分の言葉で堂々と発表することで、論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力の育成を図りました。英語スピーチコンテストでは、自分の考えを英語で表現し、英語コミュニケーション能力の向上にも貢献しました。

青少年育成顕彰「わかあゆ賞」では、スポーツ活動、文化活動、奉仕活動の優れた活動を顕彰し、更なる活躍を願うとともに、広く紹介することで青少年の健全育成を進めました。

○青少年健全育成事業

親子わくわく科学体験教室では、家庭や学校では体験できない科学の実験を通じて、子供たちが驚きや感動の体験を味わい、科学への興味を深めました。

ふるさとジュニアサポーター事業は、主に中学生が地域事業（イベントや福祉活動）にボランティアスタッフとして参加するものです。この事業を通じて、中学生の社会性の育成、自己有用感の高揚、地域への愛着と地域社会の担い手として自覚するなどの効果が見られました。地域においても将来的な担い手育成につながることを理解していただき、積極的な協力をいただいています。本事業は、教育委員会が進める学校運営協議会（コミュニティスクール）と連動する、地域と学校が協働して子供たちに幅広い社会経験の場を提供する、地域学校協働活動につなげてゆくものです。

3. 地域教育

【方針】社会構造の変化から、全国的な地域コミュニティの衰退が課題となっていました。近年、住民側、市民団体側からの再生の動きが注目されています。その背景には、次のようなことがあります。

- ① 大災害などに備え、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっていること。
- ② 市町村合併が進む中、「手作り自治会」運動がみられること。
- ③ 地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっていること。

日常生活における最小コミュニティは家族ですが、地域社会とのふれ合いは豊かな家庭生活を築く大きな力をもっています。人々との交流の中で生まれる喜びの感情や災害などの事案に遭遇したときの相互扶助の役割は、地域コミュニティに大いに期待されるべきものです。地域コミュニティの重要性が唱えられてきた気運を高めるため地域自治会等の強化と連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○生涯学習講座

春と秋の2回にわたり28講座を開設し、延べ1,099人が参加しました。生きがいくくり、仲間づくりを目的として開催するもので、アンケート結果をもとに、新しいジャンルの講座を取り入れるなどの工夫をしていますが、受講人数の増加にはつながりませんでした。しかし、参加者の満足度は高いことから、受講者の増加を目指し生涯学習講座の魅力について広くPRを行います。

生涯学習の基本理念にもある「学んだ英知を地域に還元」については、引き続き課題です。

○公民館活動

金山地域の、東、下原、菅田の3館が、春と秋の2回、16講座を開講し、延べ183人が受講しました。地域を繋ぐきっかけともなっており、地域づくりに貢献しています。

4. 情報教育

【方針】生涯学習の情報教育は、情報処理能力（情報活用、情報の理解、情報社会への参画）を高めることによって、市民が地域社会の中で主体性や創造性を発揮できるようになることを目指します。その実現に向けて、情報の共有、協働、ネットワークの整備を推進していきます。

◇ 市民の情報活用

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成。

◇ 市民の情報への理解

情報を適切に扱い、自らの情報内容の評価・改善するための方法、理解力の育成。

◇ 情報社会に参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、望ましい情報社会の創造に参画する。

主要な個別事業と事業結果について

○図書館運営

萩原、下呂、金山の3図書館、小坂、馬瀬の2図書室を設置しています。蔵書数は、市民一人当たり、平成23年の2.3冊が平成29年度には3.2冊に増加し充実してきましたが、一人当たりの貸出数は平成29年度においては、2.8冊であり県内市平均の5.39冊を大きく下回っています。

原因としては、図書館が、市民ニーズを正確に把握しきれていないため利用が少ないということが考えられます。図書館というと本を貸し出すだけのイメージがありますが、近年は利用者の求めに応じた情報提供や、情報を求めて集まる人たちの交流、そして人々を繋ぐ場所としての機能が注目されています。図書館のあり方について、研究が必要です。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		（分野別教育）	アウトプット	アウトカム
社会教育事業 10040105	<ul style="list-style-type: none"> ◇下呂市社会教育委員の会を開催し、生涯学習課所管の事務事業の評価を行い、健全な事業運営に努める。 ◇社会教育関係団体（県・飛騨社教、県視聴覚協等）との連携。 ◇社会教育主事講習への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> (3) 地域教育 (4) 情報教育 	社会教育委員の会 5回開催 ・東海北陸公民館大会参加 ・生涯学習の基本方針の策定に関わる意見・提言 ・下呂市社会教育関係団体年度末登録団体数 130団体（前年度から3団体増） ・まちづくり人材バンクの登録件数 107件 ・社会教育主事講習に参加1名	「下呂市生涯学習の基本方針」を策定したことで、さらに生涯学習の重要性が理解されることとなった。
青少年教育事業 10040201	<ul style="list-style-type: none"> ◇少年の主張・英語スピーチコンテスト開催。 ◇青少年顕彰(わかあゆ賞)の実施。 ◇青少年育成市民会議の開催。 ◇青少年文化等振興激励金交付。 ◇立入検査(有害図書等)の実施。 ◇人権学習資料の配布。 	<ul style="list-style-type: none"> (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育 	下呂市青少年育成推進員 15名 青少年育成市民会議主催行事 ①青少年育成市民会議 【H29. 6. 25実施】 ・少年の主張下呂市大会 市内中学校より推薦された6名が発表し、審査の結果上位2名を飛騨地区選考会へ推薦した。 ・青少年育成顕彰 わかあゆ賞 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動を顕彰64名、3団体 ②英語スピーチコンテスト 【H29. 10. 6実施】 国際化時代を迎えて英語力や自己表現力の向上を図るもの市内6中学校の代表者が環境や国際交流などをテーマにスピーチ。 青少年全国大会出場激励金 29名、190千円	青少年推進員と協力・連携して大きな行事をスムーズに開催することができた。また、各大会は出場した生徒の自信・意欲等につながっている。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価	
重点（事業）	（分野別教育）	アウトプット	アウトカム
青少年健全育成事業 10040205	◇子ども会活動の推進。 ◇親子わくわく科学体験教室（サイエンスの会へ委託）の開催。 ◇下呂市青少年育成推進員会議。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (1) 親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」へ委託。 学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを実施。 ①夏季の部 H29. 8. 5実施 参加者316名（参加児童143名、中学生ボランティア173名） ②冬季の部H29. 11. 18実施 参加者383名（参加児童220名、中学生ボランティア163名） (2) 青少年各種団体補助金 2,256千円 ・子ども会等活動育成補助金 ・青少年交流活動補助金 ・青少年健全育成推進会議補助金	・子ども会活動では、大きい子が小さな子の面倒をみたり、近所のおじさんおばさんと触れ合うなど貴重な体験ができている。 ・親子わくわく科学体験教室では、学校や家庭では体験できない実験を行い驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深めることができた。 ・青少年育成推進員会議では、学校と地域が連携し子供たちの成長と安全を見守っている。
成人式開催 10040209	◇成人式の開催。（旧町村単位で行う）平成30年1月6日（土）、7日（日）。	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 成人式開催（5地区）344人参加 平成30年1月6日（土） 小坂 26人 下呂 127人 平成30年1月7日（日） 萩原 130人 馬瀬 12人 金山 49人	各地区にて成人を迎える子供たちを集めて実行委員会をひらき、成人式の内容を決める。成人を迎える子供たち自身で成人式を作るため地元の良さを再確認できる。
山之口キャンプ場管理運営 10040213	◇山之口キャンプ場の維持管理。利用期間は4月から10月	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 平成29年度利用者 318人 前年度比 92.2% ※開設期間4月～10月	市内学校はもちろんのこと、市外の利用者にも利用いただくことができた。また、市交流キャンプの拠点にもなっており、青少年における野外施設としての機能を果たしている。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重点(事業)	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム	
中川原キャンプ場管理運営 10040217	◇中川原キャンプ場の維持管理。 ◇管理運営体制の見直し。	(3) 地域教育	平成29年度利用者 1,889人 前年度比 111.2% ※開設期間 4月～10月	市外からのリピート率が高く、施設の立地条件の良さが際立っている。また、委託管理をお願いしている落合区の行き届いた管理も功を奏し、約10%利用率が増えた。
下呂市交流キャンプ開催 10040221	◇下呂市交流キャンプを実施。(山之口キャンプ場を会場として市内の小中学校児童生徒から希望者)。 ◇ジュニアリーダーの資質向上と青少年の健全育成。 ◇子ども会活動の充実を図る。 ◇参加想定人数：110人。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育	下呂市交流キャンプ開催 市内の小中学生が集い、野外活動を通じた青少年の健全育成を図ると共に、ジュニアリーダーの指導技術向上を目的に開催。 ①ワークキャンプ8月5～6日 交流キャンプ8月19～20日実施 ②参加者 市内小中学生29人(4年生以上) 参加ジュニアリーダー22人	下呂市ジュニアリーダーズクラブを中心にキャンプを行うことによりシニアリーダーは育成指導者としての成長、ジュニアリーダーは指導する立場を経験することで個人の成長につながった。
社会教育活動推進事業 10040301	◇PTA活動の推進支援。 ◇文化協会活動推進支援。 ◇生活学校活動の推進支援(金山)。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	社会教育関係団体補助金 2,025千円 【対象団体】 市文化協会連絡協議会 市PTA連絡協議会 金山町生活学校	市文化協会連絡協議会については、市全体の一体感、自立に向けての意識が芽生えつつあり、会員の高齢化や地域の文化協会の在り方などの問題はありますが、移行について、協議されている。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重点（事業）	（分野別教育）	アウトプット	アウトカム	
家庭教育支援総合整備事業 10040305	◇親まなび講座。 ◇命のふれあい講座。 ◇家庭教育支援事業（下呂市家庭教育支援チーム）。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	(1) 親学び講座 親学び講座 11回開催 296人参加 親学び講座支援事業 3回 47人参加 (2) 下呂市家庭教育支援事業 UPカフェ・赤ちゃんカフェ 支援チームスタッフ 9人、 開催24回、延べ参加者730人 小坂地域1回、萩原地域6回、 馬瀬地域1回、下呂地域9回、 金山地域7回。 (3) 命のふれあい講座 市内6中学校にて35回、 参加1263人	UPカフェ・赤ちゃんカフェでは、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス発散を図った。 命のふれあい講座では、市内中学3年生全員が、命の大切さ等の学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながった。 今年度3月に、コープ益田支所職員を対象に企業内家庭教育研修を開催した。父親の育児参加、経営者側の子育て支援への理解を深める効果が大きい。下呂市においては受入れ企業が限られる為、地域等で推進することを検討し、市民にもっと情報を発信し、子育てについて理解を深めていただく必要がある。 家庭教育については、地域や学校などとの連携が必要であるが、現在は十分とは言えず、今後の課題である。
生涯学習講座 10040309	◇生涯学習講座の開催。 ・参加者 延べ1,300人を見込む ・前期（5～9月）20講座 ・後期（10～3月）24講座を募集。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	講座の実施状況 ◆萩原 ・前期4講座60人 延173人参加 ・後期4講座64人 延185人参加 ◆下呂 ・前期5講座59人 延154人参加 ・後期7講座76人 延208人参加 ◆金山 ・前期4講座54人 延231人参加 ・後期2講座22人 延106人参加 ◆小坂 ・前期1講座5人 延23人参加 ・後期1講座8人 延19人参加 ○合計 ・前期14講座178人 延581人参加 ・後期14講座170人 延518人参加	生きがいつくり、仲間づくりを目的として例年同様の方式で開催した。アンケート等をもとに、新しいジャンルを取り入れるなどの工夫を試みたが、受講者人数を増やすことは出来なかったが、受講者の満足度は高かった。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点

評 価

重 点 (事 業)		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館活動 10040401	◇公民館条例に規定する公民館活動。 ◇各公民館独自開催による講座の開催。	(3) 地域教育 (4) 情報教育	◆東公民館 ・前期3講座17人 延17人参加 ・後期2講座14人 延14人参加 ◆菅田公民館 ・前期2講座19人 延19人参加 ・後期3講座35人 延75人参加 ◆下原公民館 ・前期2講座26人 延26人参加 ・後期4講座32人 延32人参加 ○合計 ・前期7講座62人 延62人参加 ・後期9講座81人 延121人参加	金山地区3公民館ともに公民館主事が中心となり、多くの講座を開催することで、子どもからお年寄りまで楽しく学べる機会を創出することができた。金山地域の公民館活動は地域を繋ぐきっかけ作りにもなっており、他地域の公民館が学ぶべきことも多い。
公民館施設管理 10040405	◇市内10か所の公民館管理。 ①山之口公民館 ②あさんず会館 ③湯屋地区公民館 ④竹原公民館 ⑤上原公民館 ⑥中原公民館 ⑦下原公民館 ⑧東公民館 ⑨菅田公民館 ⑩馬瀬中央公民館。	(3) 地域教育 (4) 情報教育	施設の利用状況 山之口公民館 1,526人 前年度比58.5% あさんず会館 4,310人 前年度比86.3% 湯屋地区公民館 2,516人 前年度比101.2% 竹原公民館 7,886人 前年度比86.5% 上原公民館 2,597人 前年度比88.7% 中原公民館 3,970人 前年度比72.9% 下原公民館 6,541人 前年度比86.2% 菅田公民館 3,477人 前年度比72.8% 東公民館 1,457人 前年度比115.5% 馬瀬中央公民館 521人 前年度比9.6% 計 34,801人 前年度比74.6% ※馬瀬中央公民館は耐震工事に伴い2か月間のみ	適正な維持管理を行い、例年同様に運営することができた。地域行事の実行委員会会議や、特定健診の場となっている。いずれの公民館も地域コミュニティの中核となっていることがわかる。あさんず会館、菅田公民館の利用人数の増加が大きかった。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重点(事業)	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム	
公民館施設維持補修 10040409	◇市内7ヵ所の公民館にかかる小規模修繕。	(3) 地域教育	公民館軽微修繕 769千円	適正な維持修繕を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えた。
図書館運営 10040501	◇図書館(はぎわら、下呂、金山)及び図書室(小坂、馬瀬)の運営。 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理。 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実。 ◇広報活動。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (4) 情報教育	・蔵書数 H28 106,372冊 H29 106,264冊(↓) ・登録者 H28 8,544名 H29 8,898名(↑) ・年間280日開館(はぎわら図書館)	蔵書数、登録者数は増加したが、実利用者、年間貸出数は減少しているため、積極的な集客事業の展開が必要である。年代別の利用者数についても分析し、対応が必要である。
響会館施設管理 10040705	◇響会館の管理運営の見直し(指定管理)。 ◇主たる利用者は萩原地区太鼓4団体(社会教育登録団体)	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	施設の利用状況 利用者数1,818人 前年度比97.2%	施設の維持・管理をおこなった。
位山自然の家管理運営 10040801	◇位山自然の家の管理運営。 一部管理委託、下呂市内小中学校のセカンドスクールとして森林体験事業等での利用。開設期間4月～11月。 ◇指定管理を検討。	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	平成29年度利用者 4,829人 前年度比 95.5% ※開設期間4月～11月	市内学校はもちろんのこと、市外の利用者のリピート率も高く、施設の良さや、施設を取り巻く自然環境の良さが評価される。また、地元スタッフのあたたかなおもてなしも光り、利用者にとって、思い出に残る施設となっている。
星雲会館管理運営 10040805	◇星雲会館(生涯学習センター及び福祉センター)の管理運営。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	平成29年度利用者 58,937人 前年度比 163.04% ※開館347日	ダンス教室をはじめ、健康体操等の教室活動も活発に行われており、萩原地域における中央公民館としての役割を果たしている。耐震補強工事のため使用不可となっていた諸室が使えるようになったため、前年度比利用者数が大幅に増えた。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重点（事業）	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム	
いきいきセンター管理運営 10040809	◇いきいきセンター管理運営（※教育施設から除外の方針で検討）。	(3) 地域教育	平成29年度利用者1,273人 ※前年度比 98.9%	適正な維持管理を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えた。
社会教育施設維持補修事業 10040813	◇社会教育施設の小規模修繕、維持補修。 ◇響会館（管理移管に向けた整備）。 ◇位山自然の家、あさんず会館・いきいきセンター・山之ロキャンプ場・中川原キャンプ場・響会館。	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	(1) 修繕 ◆位山自然の家 ・グラウンド照明178千円 ◆山之ロキャンプ場 ・炊事場給水99千円 ・側溝61千円 外 軽微修繕135千円 (2) 施設維持工事 ◆位山自然の家 ・天体ドーム等建設工事 7,751千円 ◆中川原キャンプ場 ・屋根等塗装工事1,400千円	各社会教育施設において、適正な維持修繕を行うことができた。 特に山之ロキャンプ場、位山自然の家については指定管理に向け整備を行った。